

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0626
施設名	さくらんぼ保育園
施設所在地	東京都府中市紅葉ヶ丘1-28-1
法人名	社会福祉法人紅葉の会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

木くず遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

散歩先や園庭にある木に興味を示し、自ら手を伸ばし触れたり、地面に落ちた木の枝や木の皮を手に取り、大人に嬉しそうに見せにくる様子が見られるようになった。自然に触れられる環境で、拾ってきた自然物を室内でも触れる機会を作った。また木に対して関心が広がるよう、より匂いを感じられ変化も楽しめる木くずを用意し探求できるようにした。

2. 活動スケジュール

七月下旬～8月：①散歩先や園庭にある木に興味を示し、自ら手を伸ばし触れたり、地面に落ちた木の枝や木の皮を手に取り、大人に嬉しそうに見せにくる様子が見られるようになった。②木の玩具で遊ぶ。③拾ってきた自然物と透明の中身を見られ音を楽しめるように容器とガシャポンと箱を用意する。子どもたち一人一人が落ち着いて自分のスペースを確保して遊べるよう箱椅子を用意すると、テーブルにしてじっくり容器から自然物を出し入れしたり振ったりして音も楽しんでいた。

9月～10月：①子ども祭り（9月7日）で木くずプール体験。②保育室でもタライと木くずを用意して木くずプールを設置した。③見立て遊びが広がるように容器と台を用意して木くずでままごとのやりとりを楽しめるようにした。④子どもたちが泥がついた衣服を洗う姿から、ガーゼとシャワーからのお湯と木くずとタライにボウルとガーゼを用意し木くず染めを行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

①散歩先や園庭での戸外遊び②木の玩具（積み木・型はめ・棒通し・紐通し）で遊ぶ。③保育室でも拾ってきた自然物と透明の中身を見られ音を楽しめるように容器とガシャポンと箱を用意する。子どもたち一人一人が落ち着いて自分のスペースを確保して遊べるよう箱椅子を用意すると、テーブルにしてじっくり容器から自然物を出し入れしたり振ったりして音も楽しんでいた。④子ども祭り（9月7日）で木くずプール体験。⑤保育室でもタライと木くずを用意して木くずプールを設置。⑥見立て遊びが広がるように容器と台を用意して木くずでままごとのやりとりを楽しめるようにした。⑦子ども達が泥がついた衣服を洗う姿から、布とシャワーからのお湯と木くずとタライにボウルとガーゼを用意し木くず染めを行う。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

戸外遊びを通して、自分たちで自然物を集めるようになる。それを持ち帰り保育室でも探求できるよう素材（自然物を入れる透明なペットボトルの容器と箱を）用意し、友だちともままごとでのやり取りができるよう、また、透明のケースに入れて出し音の変化も楽しめるようにした。子ども祭りで木くずプールを設置し、保育室でもタライを用意し再現した。容器と台を用意して木くずでままごとのやりとりを楽しめるようにした。子どもたちが泥がついた衣服を洗う姿から、ガーゼとシャワーからのお湯とタライにボウルを用意し木染め体験を行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

木くずプールは木の枠やタライに入って感触や匂いを嗅ぎ楽しみ、木くずを出しみんなで引っ張って広げた後に、そこで寝転んで布団にしていた。遊ぶ中で子どもたちが巻き付けたいと保育士に提案して「プリンセス」「エプロン」と自分たちのイメージを表現していた。引っ張ったりふとんや洋服に見立てたりする姿があったので、見立て遊びが広がるように容器と台を用意して木くずでままごとのやりとりを楽しめるようにすると、「ごはん、パン、ケーキ作ったよ。」と容器に木くずを出し入れしてままごとをしていた。木染めでは、タライのお湯をボウルですくうと色の違い気づき「きいろいね」と子どもが言ったので保育士がシャワーからお湯を出したものと木くずを入れたお湯の違いを見られるようにすると「なんか色がちがうね」と色の違いを発見していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達から見えた姿は、木くず遊びを通して環境を提供することで保育士が何も言わずとも、自分から素材を手に取り自分で試行錯誤しながら、もっとやってみたいとやりたい遊びを見つけて探求する力。これは服になるかも？色が違う、寝転がることができる、引っ張ることもできると発見する力。じっくり観察して「どうなっているのかな？」と想像する力の3つである。活動中、大人の手を引いて見せてくれたり、発見したことを言葉で「これみて」と伝えてくれたり、子どもたちから発信し、共有しようとしてくれる。今は子どもたちとの対話の時間を大切に関わっている。また、これやりたいと楽しかったことは何度でもやりたいと大人に伝えてくれる。遊びが単発で終わってしまうのではなく遊びの続きができることでさらに遊びを深めていけるのではないかと今回のすくわくを通して気付いた。